



大きな掛け声でみこしを揺らす子どもたち

子どもたちの元気が景気をつける かわいいみこしが練り歩く内子の秋祭り

「愛護班子どもみこしパレード」(内子・城廻地区愛護班連絡会主催)の出発式が10月12日、内子自治センターで行われ、各区のそろいの法被を着た子どもたち145人と13基の子どもみこしが集まりました。同センターの前野良二館長が「大きな掛け声で秋祭りを盛り上げよう」と呼び掛けると、子どもたちは「わっしょい、わっしょい」とそれぞれの地区に向けて元気に出発しました。



豪快なうどんのつぎ方に、周りの人も思わず笑顔

里山の味覚で食欲を満たす 「長田食の文化祭」

「長田食の文化祭」(長田自治会主催、太田利栄自治会長)は10月16日、お山の学校ながたで開かれました。郷土料理の団子汁の試食や、500円で食べ放題の熱々の釜揚げうどんなどが人気で、来場者は長田の味に舌鼓を打っていました。太田自治会長は「大学生や企業の皆さんも応援に来てくれている。ふるさつを感じる温かいイベントなので、来年も来てほしい」と呼び掛けました。



お礼をいいながら絵本を受け取る園児たち

思いやりの心を育ててほしい 国際ソロプチミスト大洲が絵本を寄贈

国際ソロプチミスト大洲から大瀬保育園(森美紀園長、園児49人)に絵本が贈られ、贈呈式が10月20日、大瀬保育園で行われました。同団体の代表者3人が子どもたちに絵本を手渡し、「素敵な絵本をみんなで仲良く読んで」と思いを伝えました。森園長は「絵本は子どもたちの思いやりの心や想像力を育む。みんなで大切にしたい」と感謝の気持ちを述べました。



閉校時のままの体育館で熱戦が繰り上げられた

米俵を懸けた熱い戦い 旧御祓小学校でフットサル大会

「第1回みそぎフットサル大会」(フットサルで田舎をもっと元気に主催、福山竜二代表)が10月23日、旧御祓小学校で開かれました。町内外の7チームが参加し、優勝賞品の「棚田の米俵30*」を懸けて戦った他、石窯のピザ焼き体験などで、御祓地区の人たちと交流しました。福山代表は「今度はどろんこサッカーなどを企画して、御祓地区の魅力をもっと感じたい」と話しました。

ドイツビールで「プロースト」 音楽と料理でドイツを感じる1日

内子町とドイツ・ローテンブルク市との姉妹都市交流を記念して始まったイベント「ドイツフェスタ2016」(同実行委員会主催)が10月1日、まちの駅Nanzeと内子町ビジターセンターA・Runzeを中心に開かれました。このイベントはドイツ文化に触れる機会の一つとして年1回行われ、今年で4回目。商店街も会場になり、音楽を聴きながら料理やドイツビールを楽しめます。

今回は内子町国際交流協会も出店し、伝統的なドイツのパン「プレッツェル」や、ドイツでよく飲まれるリンゴソーダの「アップフェルショルレ」などを販売。両国の国旗を顔に描くサービスなどで、雰囲気を盛り上げました。国際交流員のドレーン・アルトさんは「ドイツ政府から送られた花飾りや旗を飾るなど、ドイツを感じてもらえるよう工夫した。民族衣装を着た人や、ステージの前で踊る人がいて、いつもの内子町と違った」と笑います。

会場では乾杯を意味するドイツ語の「プロースト」の掛け声が響き、おいしそうにジョッキを傾ける人々にぎわっていました。



1_季節外れの暑さの中で開かれた「ドイツフェスタ」。ドイツビールでのどを潤した 2_からりのオリジナルソーセージが人気 3_国際交流協会のブース

みんなで集まる楽しい1日 きらりとかいとが祭りを開催

「きらり☆かいとまつり」は10月8日、五十崎児童館きらりと障害者地域活動支援センターかいとで開かれました。この祭りは両施設の利用者同士の交流を深めるために、毎年開催しています。参加者はスーパーボールすくいなどのゲームをして、楽しいひとときを過ごした他、かいとの利用者が手作りの焼き菓子などを販売するバザーで買い物をして、交流を深めていました。



かいとの利用者が開くバザーが大人気

自治会のみんなで収穫を楽しもう 「第1回廿日市自治会稲刈り」

市街地に住む子どもたちにも農業体験をしてほしいと「廿日市自治会稲刈り」(樋内みどり自治会長)が10月8日、廿日市子ども農園で初めて行われました。雨が続き、田んぼがぬかるんでいましたが、子どもたちは楽しそうに作業をしていました。樋内会長は「田植えや稲刈りをしたことのない子どもが多い。12月には、収穫した餅米で餅つきをするので、いい思い出になるのでは」と話しました。



JR内子駅の高架が見える田んぼで収穫体験